

地方創生関連交付金等の効果検証における まちづくり推進会議まちづくり部会委員からのご意見等

町では「第 1 期佐用町地域創生人口ビジョン・総合戦略」に基づき、地域創生関連交付金に申請してまいりました。交付金及び企業版ふるさと納税を受けて実施した事業については、その効果を国に報告することとなっています。このほど、外部委員会である「まちづくり推進会議まちづくり部会」にて効果検証を実施したところ、各事業に対して以下のとおり、評価・ご意見等頂戴しましたので、とりまとめの上、ご報告いたします。

事業① 地域特産物の育成・強化と新たな地域資源活用創造プロジェクト（深化型）

- 指標 1（販売拠点施設の年間売上額）の 3 年間推移は、平成 29 年度は目標値を上回り、平成 30 年度、令和元年度は僅かに下回っているが、毎年 350 百万円を上回り安定している。新規販売先開拓数も年々増加しており良好と言えるが、目標値の根拠が分からず、正しいものか不明。
- もち大豆は色々な料理に使われるようになったと思う。
- 薬草はもう少し変わった物が作れないか。
- 販売拠点施設の年間売上は横ばいであるが、新規販売先開拓数は目標を大きく上回っており、売上増につながることを期待できる。
- 「佐用風土」への出品者が増えることを期待する。
- 薬草、ミツマタ栽培については、自治会長会、農会長会等での積極的な広報が必要だと考える。
- 食文化の変化や人口の減少により消費量の減少が考えられますが、町内の消費量を増加させる PR 等も必要ではないか。
- 薬草については、生産者の高齢化もありますが、組織化による安定生産の一方で個人による少量生産を増やすことも生きがいつくりなどに役立つことになるのではないかと。
- 「佐用もち大豆」が GI 制度に登録されたことは大きな成果だと思う。
- GI 登録された佐用もち大豆の商品開発に力を入れ地場産業化されることで色々な商品が出来てくると思う。また、SNS やマスコミを通じて、継続してアピールすることで知名度も上がり、現在ネット通販が主流になっている中、全国民をターゲットに販売してはどうか。
- 佐用もち大豆は色々な取り組みがされているのがよく分かった。実績値も上がっているなのでこのまま続けていくべきだと思う。
- 町内直売所の売上額は平成 30 年度、令和元年度ともに目標未達であるが、じり貧傾向にある直売所の統合を決定されたことは大きな成果である。
- 佐用町は交通の要所となっているのに現在の販売所はお客様に対してのインパクトがないため集客が少ない。
- 外販部門を強化するためにも、経営統合化と共に販売所の統合を図り、佐用インター付近に近隣販売所の建設をしてはどうか。
- 薬草、ミツマタ産地化プロジェクト事業に対しての町民の認識度が不十分である。全町的な取り組みをしてはどうか。
- 特産品の開発も必要だが、ひまわり、もち大豆など従来の特産品に対しての販路拡大も重要。
- EC サイト構築、GI 登録の取り組みは地域特産物の PR に寄与していると考えられるので評価できるが、販売拠点施設については、新規販売先が年々増加しているものの、年間売上額は減少傾向にある。交通

- 量低下、新型コロナなど刻々と変化する外部環境に柔軟に対応できるよう企業努力が必要だと考える。
- 佐用もち大豆の GI 登録によるブランド力向上や EC サイトの構築等により、令和元年度の売上額はイベント中止等により目標値を下回ったものの、新規販路開拓数の目標値は2倍となるなど効果があったものと評価される。今後とも、県農林振興事務所の各種事業とも連携等いただき、ブランド力の強化に努めてもらいたい。
 - 佐用もち大豆の特産品である豆腐が、人手不足のために販売が減少しているのがもったいない。
 - 道の駅ひらふくは地場産品の販売が少なく、地元客、リピーターの取り込みが少ない。生産農家が高齢化して減少傾向にあるため、地元産品の売り場を拡大、生産者の販売意欲を高め、若年生産者の育成を図れないか。
 - もち大豆、そばなどの特産品については、地元業者と連携して、みそ、豆腐以外の豆の煮ものなどの加工品（例：フジッコのお豆さんみたいに）、そば餅・そば饅頭、そばぼうろなどを生産してみてもどうか。
 - ミツマタ事業に関しては、当初の説明と比べると空想が先走りして地についていないように感じる。また雇用に関しても当初の見込みに至ってないものと思う。労働人口の高齢化を避けて通ることができず、事業の継続性に疑問がでる。機械化等の効率化を図るとともに、作業補助ロボット（補助器具）等の導入を図り、栽培・収穫・加工にかかわる人の作業負担の軽減はできないかと考える。
 - 放棄農地の活用目的の薬草栽培に関しても、従事者の高齢化は避けることができず、販路の開拓は必須事項と考える。当然作業の効率化を図り、若者に人気のある職業に育てていく必要があるだろう。
 - 姫路、神戸、大阪などの各種イベントに積極的に参加し、「佐用町がんばってるやん」感を今以上にロコミで PR する必要があるように思う。町長を筆頭に、町職員、地域づくり協議会、自治会、JA、商工会など総力あげて取り組むことが大切と思う。

事業② 佐用の歴史と文化を磨く未来伝承プロジェクト

- 指標 1（宿場町平福の観光入込客数）、指標 2（道の駅宿場町ひらふくの年間売上）、指標 3（佐用町観光入込客数）は全て目標値を上回っているが、事業①同様に目標値の根拠が分からず、正しいものか不明。
- 宿場町平福、利神城跡の保存・整備は重要なプロジェクトだと思うが、経済的効果を考えたり、平日の周辺の状況を考えると、必要なものかどうか一考の余地がある。町内にある4つのゴルフ場と提携して、ジュニア育成や中学・高校にゴルフ部を創設し、「ゴルフのまち佐用」を考えてみたらどうでしょうか。
- 指標 1（宿場町平福の観光入込客数）、指標 2（道の駅宿場町ひらふくの年間売上）、指標 3（佐用町観光入込客数）ともに目標を上回っており、取り組みの成果が表れていると思う。
- 旧木村邸（平福）については、実施主体も決まり、実際に動き出しており、今後が楽しみである。
- 「佐用ふるさとカルタ」を活用し、子どものみならず町民が佐用を知ることにより、佐用に誇りを持てるきっかけになればと思う。
- 特定地域での事業実施ではありますが、町内住民にも知ってもらうため、町民へのイベント実施でまずは町内から周知する必要があるのではないか。
- 宿場町平福は佐用の貴重な資源なので、今後とも力を入れていくべき。
- 江川ドローン学校とコラボしてひまわり畑での空からの記念撮影とか平福の景観を継続してアピールすることで「行ってみたい」と思わせることをしたらどうか。ひまわり畑でのドローン記念撮影はインスタ映えすると思うし、観光客も増加すると思う。
- 利神城址について、今後佐用町の観光の目玉となると思うので、登山道・遊歩道の整備に力を入れても

raitai. 今後コロナが収まれば外国人観光客を地方に引き寄せる対策も必要ではないか。

- 平福については、道の駅の売上も毎年上がっており、観光入込客数も増加していることから、ポテンシャルがある考える。一棟貸し宿の宿泊施設を設けるとすると、日帰りに比べると長くなる佐用町での滞在時間を楽しんでもらえるような工夫やアクティビティが必要だと考える。
- いずれの指標とも目標値をクリアしており、佐用町の有する歴史的・文化的資源は、交流人口拡大に寄与するポテンシャルを有していると認識できる。西播磨県民局では、山城と伝統文化体験を生かして交流人口の拡大を目指す「山城復活プロジェクト」を推進しており、佐用町との連携を大いに期待している。
- 木村邸のレストランには現在の道の駅のレストランに入ってもらい、道の駅は地場製品の販売所とし売り場面積を拡充、町内の野菜を姫路市場の卸値で販売、タブレットで生産者をつなぎ常に不足物を補充する体制が取れば、地場製品の販売促進につながり、若手農家の育成にもつながらないだろうか。
- 佐用の歴史と文化を磨く未来伝承プロジェクトという事業名称だが、なぜ平福だけが対象なのか不明である。利神城が国指定になりそれを中心に考えているのは理解するが、「点在するあらゆる資源の効果的な活用を図り」とあるが点在するという資源は何なのかが不明。

事業③ 地域資源を活用したハイキングツーリズム推進プロジェクト ～「佐用ハイキング34コース」を活かして～

- ハイキングツーリズム推進プロジェクトに、JR 姫新線、智頭急行利用促進とあるが、そこに神姫バスを加えて佐用町と提携して、それぞれの主要駅（姫路～三宮、鳥取～岡山）、車内、旅行センターホームページでPRしてもらい、参加者を募集し、町内観光の活性化を目指してはどうか。
- 参加者は目標を下回ったが、町の各課の取組、地域づくり協議会の取組などとリンクして息長く続けていきたい。
- 西播磨県民局の取組「西播磨山城復活プロジェクト」と連携した企画をやれば面白いと思う。
- ハイキングイベントの参加者も実施地域の住民にスタッフ参加を呼びかけ、地元との交流を考えてはどうか。また、町内参加者にはSNSの活用をお願いし佐用町の魅力を拡散してもらってはどうか。
- 健康寿命を伸ばすためにも又健康意識を高めるためにも期待される事業であるが、コロナのためにイベント等中止があり残念である。
- 新型コロナウイルスのため、現在は実施できない状況と思うが、ハイキングツーリズムは参加者が増えることで知名度も上がると思うので今後も続けていくべきだと思う。
- 佐用町の豊かな自然「山・川」を活かし、現在流行しているキャンプ場を整備してはどうか。船越にもキャンプ場があるが、佐用には景色がいいところがいっぱいある。家族で遊べる場所を作って佐用町をアピールしていただきたい。
- 毎年100人以上の参加があり、佐用町ならではの場所に行けている。いい取組なのでなくさないでほしい。
- 屋外型のイベントなので天候に左右され参加者数が大きく増減するのは仕方がないと思う。新たにハイキングコースを企画する際に、過年度の参加者に感想や意見を聞いてみるのもいい企画をつくる一助になると思う。
- 近場で3密にならず、自然や歴史を楽しめ、健康増進につながるハイキングは、ポストコロナにおいて利用者拡大が期待される。他の主体が実施するイベント・事業とも連携を深めてもらいたい。
- 定期的にハイキングコースに史跡等を組み込んだツアーを企画・実行する。健脚コース、一般コースなどで企画するのもよいかと思う。